【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-522158(P2004-522158A)
【公表日】平成16年7月22日(2004.7.22)
【年通号数】公開・登録公報2004-028
【出願番号】特願2002-580686(P2002-580686)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ２１Ｂ　1/00
　Ｈ０５Ｈ　1/11
　Ｈ０５Ｈ　1/16
【ＦＩ】
　Ｇ２１Ｂ　1/00　　Ｅ
　Ｈ０５Ｈ　1/11
　Ｈ０５Ｈ　1/16

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月24日(2005.1.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　融合生成物エネルギーを電気エネルギーに変換する方法であって、以下：
　複数の電極（４９４）によって形成される表面を有するほぼ円柱形管腔（４２０）内の螺旋状通路に沿ってイオンを注入する工程であって、該複数の電極は互いに間隔のあいた関係にあり、該電極間に複数の細長い間隙（４９７）を有し、該間隙が該管腔の長軸に沿って延在する、工程；
　２つより多い極を備える多極構造を有する管腔内に電場を形成する工程；および
　該電場との相互作用により該イオンを減速し、該イオンの運動エネルギーの少なくとも一部を振動電気エネルギーに変換する工程、
を包含する、方法。
【請求項２】
　前記複数の電極に振動ポテンシャルを適用する工程をさらに包含する、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
　前記複数の間隙を横切る方位電場を形成する工程をさらに包含する、請求項１または２に記載の方法。
【請求項４】
　前記注入工程が、前記イオンの実質的に全ての軸方向エネルギーを回転エネルギーに変換する工程を包含する、請求項１～３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項５】
　前記イオンが、環状ビームの形態で注入される、請求項１～４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】
　磁気カスプを通る前記環状ビームを方向付ける工程をさらに包含する、請求項１～５のいずれか１項に記載の方法。

【請求項７】
電子が前記磁気カスプの磁力線に従う場合、前記環状ビームから電荷中和電子を収集する工程をさらに包含する、請求項６に記載の方法。
【請求項８】
一旦、前記エネルギーの実質的部分が電気エネルギーに変換されると、前記イオンを収集する工程をさらに包含する、請求項１～７のいずれか１項に記載の方法。
【請求項９】
前記イオンエネルギーから変換された前記電気エネルギーを調整して、既存の電力グリッドを調和させる工程をさらに包含する、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記複数の電極が、少なくとも４個の電極を含む、請求項１～９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１１】
逆サイクロトロンエネルギー変換器であって、以下：
ほぼ円柱形の管腔を形成する複数の電極（４９４）であって、該電極は、該電極間に複数の細長い間隙（４９７）を有する間隔のあいた関係にあり、該間隔は、該管腔の長軸に沿って延在し、ここで、該複数の電極は、２つより多い極を有する多極電場を形成する２つより多い電極を含む、電極；および
該複数の電極の周りに延在する磁場発生器（３２５）、
を備える、変換器。
【請求項１２】
前記複数の電極の一端に配置されるイオン収集器（４９２）をさらに備える、請求項１１に記載の変換器。
【請求項１３】
前記複数の電極の別の端部に隣接して配置される電子収集器（４９０）をさらに備える、請求項１２に記載の変換器。
【請求項１４】
前記電子収集器が、環形状である、請求項１３に記載の変換器。
【請求項１５】
前記電子収集器（４９０）およびイオン収集器（４９２）が、電気的に接続されている、請求項１３または１４に記載の変換器。
【請求項１６】
前記複数の電極に連結されたタンク回路をさらに備える、請求項１１～１５のいずれか１項に記載の変換器。
【請求項１７】
前記磁場発生器が、前記複数の電極の周りに延在する複数の界磁コイルを備える、請求項１１～１６のいずれか１項に記載の変換器。
【請求項１８】
前記複数の電極が、対称的である、請求項１１～１７のいずれか１項に記載の変換器。
【請求項１９】
請求項１１～１８のいずれか１項に記載の変換器であって、前記複数の電極が、
細長い管腔を形成する４個の４分円柱形電極であって、該電極は、該電極間に４個の細長い間隙を形成する間隔のあいた関係にある、電極、を備える、変換器。